東方文化支援財団が贈呈

日刀保たたらの木原村下に初のアジアンカルチャーアワード

国内で唯一、たたら製鉄の操業を続けている日刀保たたら（奥出雲町大呂）の村下（むらげ）＝技師長＝、木原明さん（84）＝同町下横田＝に、東方文化支援財団（東京都、中野善壽代表理事）の「ASIAN CULTURE AWARD（アジアンカルチャーアワード）」が贈られ、8月29日、「奥出雲たたらと刀剣館」（奥出雲町横田）で贈呈式があった。

同財団は昨年8月に設立。同アワードは、地域や国境を越えて文化芸術分野を下支えする人々への感謝を表す賞で、2月の最終選考会を経て、木原さんら3人に初めて贈られた。木原さんは、千年以上の歴史を持つ製鉄法「たたら」の養成員をとりまとめ、日本刀の材料の玉鋼（たまはがね）づくりの技術を伝承し後継者を育成している。

贈呈式では、中野代表理事（75）が木原さんに「感謝状です」と同アワードと賞金100万円などを贈り、「（木原さんの）背中の感じが凛としていて気合が感じられた」と話した。木原さんは「大変名誉な賞で、ありがたく感極まっています」と述べた。

同アワードはほかに、長崎県壱岐島に伝わる伝統凧「鬼凧（おんだこ）」の唯一の職人、平尾フクヨさん、漆（うるし）の蒔絵（まきえ）用貴金属粉の材料を提供する石川県金沢市の吉井商店社長、吉井健司さんに贈られた。

出雲乳児保育所

ヤギにも触ったよ

上津の豊かな自然を満喫

出雲市今市町の出雲乳児保育所（伊藤充典所長）の5歳児13人が8月28日、出雲市上津地区を訪問。谷川や山登り、ヤギとのふれあいなど、丸一日、豊かな自然を満喫した。

同保育所では、例年この時期に、保育所で一泊する「お泊り保育」を実施しているが、今年は新型コロナウイルス感染予防のため中止。同地区の招きに応じ、日帰りで一日自然の中で過ごした。

この日は、同地区の生き物観察や自然の中での体験活動を続けている子どもエコクラブ「上津探検隊」（嘉村正徳代表サポーター）の大人5人が分担して案内。

午前中は、活動拠点のビオトープ「カエルランド」や「サワガニランド」などを訪れて、「カエル釣り大会」でカエルやイモリなどに親しんだほか、約20分ほどの山登りや滝遊びなどを楽しんだ。

見晴らしの良い山頂では、隊員がロープを一木の枝に掛けて手製のブランコが大人気。また、谷川を下ったり滝で全身ずぶぬれになって大はしゃぎする子どももいた。

昼食後は、同地区で飼育している雌のヤギ2頭がいる「やぎランド」を訪問。はじめのうちは自分たちよりずっと大きな体のやぎにおっかなびっくりだったが、のどかなヤギたちの様子に次第に安心し、好物の草を食べさせたり、背中をなでたりして触れ合った。保育所に帰るためバスに乗る時間が来ると、多くの子どもたちが「明日も来る！」と名残惜しそうだった。

初めてヤギと触れ合った鶴本遥眞（たくま）ちゃん（6）は、「ヤギを触ったら温かかった」とうれしそうに言い、柳楽結愛（ゆらら）ちゃん（5）は、「うまくカエルをつかまえられた。滝で遊んだのがすごく楽しかった」と話していた。

伊藤所長は、「子どもたちは、普段町中ではできないことを体験でき、自信にもつながったように思う。またぜひ訪れたい」と話した。

ヤギとふれあう子どもたち＝8月28日、出雲市上津地区

出雲市

はじめてのポルトガル語講座

受講者を募集

チラシより

出雲市は、これから始める人のための「はじめてのポルトガル語講座」の受講者を募集している。

全3回の講座で、講師はブラジル出身で同市国際交流員のカミーラ・イキエネさん。ポルトガル語の基本や、あいさつ、自己紹介などのほか、ブラジルの文化や食べ物、観光地などを楽しく学ぶ。

申し込みは、はがきかせんが（右）と東方文化支援財団の中野代表理事＝29日、奥出雲たたらと刀剣館

島根日日新聞社
身近な話題
提供ください
電話 0852・22・6760

＊野の花＊

イヌホウズキ

ナス科ナス属の一年草。畑や道端に自生する。花期は8月から10月。葉の下に、白い花弁が反り返り、黄色い雄しべをつきだした、小さな花をつける。緑色をしたトマトのような実をつけるが、熟す